

## 令和元年度 第3回千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議開催結果

<日 時> 令和元年 11月 21日(木) 13時 30分～14時 50分

<場 所> 総合福祉センター 4階 402号室

<出席者> 委員及び千歳市・事務局 計 26名

### 【委員】22名(別紙名簿のとおり)

荒会長、青木副会長、森委員、古田委員、横山(史)委員、青山委員、柳田委員、益山委員、佐藤(義)委員、菊池委員、岡田委員、大村委員、佐藤(貞)委員、川北委員、斎藤委員、五東委員、下川部委員、山崎委員、森本委員、田口委員(代理：こども療育課 吉田主査)、奥貫委員、富永委員

欠席(4名)

伊東委員、宮下委員、中川委員、清水委員

### 【事務局】4名

(事務局)新谷障がい者支援課長、甲木障がい福祉係長、佐藤自立支援係長  
千歳市障がい者総合支援センター 横山センター長

<配布資料(別添のとおり)>

(1) 千歳市障がい者地域自立支援協議会各部会活動報告(事前配布資料)

<次 第>

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

朝晩寒くなり足元も悪い中、お集まりいただき感謝申し上げます。

今現在、国から市町村に求められているものの一つとして、地域生活支援拠点の整備が挙げられる。第5期障害福祉計画の中で当該拠点整備を進めていく必要があるが、拠点整備に当たっては各市町村で様々な課題があり、特に北海道については広域にわたることから圏域での整備もなかなか進んでいない現状にある。一方で、次期計画である第6期計画の策定に当たっては、各市町村又は各圏域に1つ以上の地域生活支援拠点等を確保しつつ、各地域の実態に即した機能の充実・強化に係る内容が国から示される見込みであり、地域共生社会の仕組みの一つとして取組を進めていく必要があるものと認識している。

今後、2025年には団塊世代が75歳に達し、さらに2040年には団塊ジュニアが65歳以上となり、「高齢者の急増」から「現役世代の急減」という局面を迎え、福祉の担い手が限られていくことが予想される中で、千歳というまちの課題を的確に把握しながら様々な準備を進めていく必要がある。委員各位と課題を共有し、考え方を一つにまとめながら地域共生型社会の実現に向けた取組を進めていきたいと考えているので、活発な意見交換をお願いして開会のあいさつとさせていただきます。

### 3 議題

#### (1) 千歳市障がい者地域自立支援協議会各部会報告

##### 相談支援部会(奥貫部会長)

前回の定例会議以降は部会としては9月と10月に2回開催しており、その間に「障がい福祉勉強会」を1回開催した。

9月の部会では、障がい福祉勉強会の開催に係る確認と地域課題に関する情報交換を行った。今までサービスを利用していなかった方の利用ニーズが増えてきている印象であるが、ニーズに対応するだけの社会資源が不足している点が課題であるという共通認識を得たところである。

障がい福祉勉強会については、9月27日に開催し、「就労支援の実際について」というテーマで、就労継続支援A型・B型及び就労移行支援の基礎について理解を深めるため、関係事業所3事業所から実践報告をいただいた。参加者は48名であった。

また、10月に開催した部会においては、次回の障がい福祉勉強会(12月6日開催予定)の開催内容の検討のほか、地域課題として、児童から障がい者、障がい者から高齢者へとライフサイクルの変化に伴い利用できる制度やサービスが変わっていく際の関係機関の連携をどのように図っていくべきか意見交換を行ったところである。

なお、次回の部会では、成年後見支援センターの開設に伴い、成年後見制度に関わる相談事例を持ち寄り、意見交換を行っていきたいと考えている。

#### 【質 疑】

##### < A委員 >

障がい者が65歳以上になることで、従来の障害者福祉サービスを受けられなくなる「65歳の壁」問題があるが、相談支援事業所ではどのような対応をとっているのか。

##### < 奥貫部会長 >

当センターは主に精神障がいのある方を対象としている。精神障がいのある方の場合、65歳になり認定を受けても非該当となることが多く、継続して関わりをもつことがほとんどである。障がい者総合支援センターの状況はいかがか。

##### < 横山センター長(事務局次長) >

ここ数年で該当する事例はないが、もともと2号被保険者の方で障害福祉サービスの就労支援事業所の利用を希望される場合に、介護保険のケアプランに盛り込んでもらえるよう支援を行ったケースはある。毎年65歳になる対象者がいるが、介護認定を受けられるのか受けられないのかなど個々の状況を確認しながら、必要に応じ包括支援センターと情報共有しながら対応を行うこととなる。

##### こども部会(こども療育課 吉田主査)

まず、9月26日に開催した座談会についてであるが、「就学」、「福祉サービス」、「就労」の3つのテーマでグループ分けし、参加者間の情報交換の場として開催した。「就学」のグループ

では支援学級の子どもの過ごし方について具体的な情報交換が行われており、「障害福祉サービス」のグループでは利用できるサービスの情報交換に加え、不登校児への対応についての意見交換も行われており、参加者アンケートの結果は概ね好評であった。

次に、10月に開催した部会についてであるが、レッツスマイル冬企画に関する打ち合わせを行ったところであり、日程を令和2年1月11日とし、行先は国営滝野すずらん丘陵公園とすることで決定している。また、各事業所の空き情報の共有を図ったほか、通常学級に在籍する発達障がいのある子どもに対する支援の在り方について課題共有、意見交換を行った。

はたらく部会(下川部会長)

まず、9月5日に実施した視察研修について報告する。例年は市外の事業所等を視察先として一日日程で実施していたが、今年度は市内事業所の視察を行うこととし、さらに参加区分を「全日程」、「午前のみ(昼食あり)」、「午前のみ(昼食なし)」、「午後のみ」の4つに分けて、多くの方が参加しやすいよう工夫した。参加者アンケートでは、「他の事業所などの事業内容を知ることができる貴重な機会なので継続してほしい」などの感想が得られており、今後も継続して実施していきたい。

次に、9月6日に開催した部会では、11月30日に開催する合同説明会の最終打ち合わせを行った。また、地域課題として「発達障がいのある方で他の利用者とトラブルが起きるケース」についての意見交換を行った。

## 【質 疑】

< B委員 >

全国的に発達障がいと診断される方が増えてきている中で、福祉的就労される方も増えていく。強いこだわりがあるなど障がい特性により、定着が難しい場面が多々生じている。発達障がいのある方々への支援の在り方については、はたらく部会の中で情報共有や意見交換を図っていただきたい。

奥貫部会長にお聞きしたいが、障がいのある方が一般就労した後は、計画相談から外れることとなるが、その後の何らかの関わりがあるのか。

< 奥貫部会長 >

計画相談からは外れるが、基本相談いわゆる「よろず相談」として職場定着に関する相談対応などの関わりを持っているケースは多い。

地域生活部会(岡田部会長)

地域生活・在宅支援における課題の把握を目的として平成29年度から部会を開催しているが、これまで具体的な活動には至っていなかった。9月に開催した部会では、これまで同様、地域生活における課題の把握に関する意見交換を行う中で、震災対応も地域生活における大きな課題の一つであり、胆振東部地震の発生から一年が経過した中で、震災で得た教訓や課題を振り

返る機会を設けることとなった。

10月6日に「災害時における自助・共助について」というテーマで勉強会を開催しており、当事者団体等から20名の参加のもと、きょうされん（全国共同作業所連絡会）が制作した東日本大震災における障がい者の避難に関するドキュメンタリー映画「星に語りて」の上映と、防災等に関する講話、グループワークの3本立てで開催した。

なお、開催当日は、参加者からの要望により予定していたグループワークに替えて質疑応答の時間を長く設けることとした。開催準備期間が短かったことから参加者は少なかったが、有意義な機会であったと感じており、今後は年一回9月ごろを目途に災害に関する勉強会の場を企画していきたいと考えている。

## 【質 疑】

< C 委員 >

部会の活動の中心を災害対応としていくのか。

< 岡田部会長 >

災害については、地域生活・在宅生活における課題の一つであることから今回勉強会を開催したものである。今後は、支援者などを通じて地域課題（暮らしづらさなど）の把握に努めていく方向であり、その方法等を検討していくこととしている。

手話言語条例推進専門部会（佐藤(義)部会長）

11月1日に部会を開催している。その概要についてであるが、千歳市手話言語条例の推進のために何が必要なのかという意見交換を行ったほか、千歳聴力障害者協会でも独自に手話の普及を図っており、その内容についての情報共有を図ったところである。詳細については、次回の協議会で報告させていただく。

## 4 その他（新谷事務局長から）

千歳市成年後見センター開設記念講演会が11月27日に開催されるので、委員各位にもぜひ参加いただきたい。

## 5 閉会

令和元年度第3回 千歳市障がい者地域自立支援協議会出席委員名簿

任期：令和2年10月28日まで

選考区分	所属機関・団体等	委員役職・氏名	区分補足	出欠			
(1) 公募	1		森 勝 子	障がい者家族	出席		
	2		古 田 聖	障がい当事者	出席		
	3		横 山 史 紀	一般市民	出席		
(2) 福祉、保健、医療、雇用、教育等に知識及び経験を有する者	4	千歳公共職業安定所	上席職業指導官	青山 新 吾	雇用・労働行政機関職員	出席	
	5	北海道石狩振興局保健環境部 千歳地域保健室健康推進課	保健係長	柳 田 基 貴	保健・医療行政機関職員	出席	
	6	千歳病院	精神保健福祉士	益 山 桂 太 郎	医療機関職員	出席	
	7	社会福祉法人 千歳いずみ学園	総合施設長	荒 洋 一	障害者支援施設役員	出席	
(3) ア) 関係機関及び団体等の代表者又は推薦を受けた者 障がい者又は障がい児の家族団体又は支援団体等	8	千歳身体障害者福祉協会	会長	伊 東 ミ ッ 子	身体障がい当事者	欠席	
	9	千歳聴力障害者協会	会長	佐 藤 義 典	聴力障がい当事者団体	出席	
	10	千歳視覚障害者福祉協会	会長	菊 池 悦 子	視覚障がい当事者団体	出席	
	11	千歳市肢体不自由児者 父母の会	会長	岡 田 美 智 子	身体障がい者家族	出席	
	12	千歳市手をつなぐ育成会	会長	青 木 繁 雄	知的障がい者家族	出席	
	13	千歳市つくし会	会員	大 村 徳 子	精神障がい者家族	出席	
	イ) 福祉、保健、医療、雇用、教育等に関する関係機関又は団体等	14	千歳市民生委員児童委員 連絡協議会	会長	佐 藤 貞	地域福祉団体	出席
		15	千歳市社会福祉協議会	専従通訳者	川 北 美 由 紀	地域福祉団体	出席
		16	千歳商工会議所	事務局長	宮 下 明	経済団体	欠席
		17	北海道千歳高等支援学校	教諭	斎 藤 芳 朗	高等支援学校	出席
		18	千歳市立北進小中学校 (相談支援・地域連携部)	教諭	五 東 康	特別支援学級	出席
		19	北海道南幌養護学校	教諭	中 川 道 博	特別支援学校	欠席
		20	就労推進室やませみ	就労推進員	下 川 部 志 穂	就労推進員	出席
ウ) 障害福祉サービス事業所等	21	生活介護ステーションゆみな/ 支援センターゆみな	所長	清 水 道 代	通所系障がい福祉サービス事業所	欠席	
	22	就労移行支援事業所ゆうび/ 就労継続支援事業所ゆうび	所長	山 崎 千 尋	就労系障害福祉サービス事業所	出席	
	23	青葉の杜 / 青葉の郷	施設長	森 本 洋 行	GH・CH、自立訓練事業所	出席	
	24	サポートセンターエブリ	所長	田 口 幹 子	移動支援・日中一時支援事業所	出席 (代理：こども療育課 吉田主査)	
エ) 相談支援事業所等	25	千歳地域生活支援センター	センター長	奥 貫 あ い 子	千歳市委託相談支援事業所	出席	
	26	千歳市地域包括支援センター	北区地域包括支援センター長	富 永 壮	介護保険サービス	出席	

# 令和元年度 第3回千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議

日時：令和元年 11月 21日(木) 13:30～

場所：総合福祉センター 4階 402号室

## <次 第>

### 1 開 会

### 2 会長あいさつ

### 3 議 題

#### (1) 千歳市障がい者地域自立支援協議会各部会活動報告

相談支援部会

こども部会

はたらく部会

地域生活部会

手話言語条例推進専門部会

### 4 その他

### 5 閉 会

令和元年度第3回  
千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議  
資料

3 議 題

(1) 千歳市障がい者地域自立支援協議会各部会活動報告

相談支援部会 ( P 1 ~ P 6 )

こども部会 ( P 7 ~ P 11 )

はたらく部会 ( P 12 ~ P 13 )

地域生活部会 ( P 14 ~ P 15 )



令和元年度 第5回相談支援部会 報告	
日 時	令和元年9月18日(木) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員) こども療育課(宮坂相談員) 千歳こぶしクリニック(松田相談員) 障がい者支援課(小島係長) 夢民(阿部氏) 千歳市障がい者総合支援センターChip(新村・吉田)
要 旨	<p>1. 千歳市障がい者地域自立支援協議会議についての報告(奥貫部会長より)</p> <p>2. 障がい福祉勉強会について</p> <p>3. 地域課題(情報交換)について</p> <p>4. その他</p>
会議内容	<p>1. 千歳市障がい者地域自立支援協議会定例会議についての報告(奥貫部会長より)</p> <p>(1) 第2回千歳市障がい者地域自立支援協議会義が9月10日に開催された。各部会長から報告があり、質疑応答の際には委員の方々からいくつか質問が出ていた。</p> <p>(2) 4月から8月の相談支援部会の活動報告を行った。委員から、健康診断等での病院受診同行の障がい福祉サービスと介護保険サービスの違いについての質問があった。障がいを持つ人が65歳を迎えても、今までと同様のサービスを継続して使えないものかとの内容であった。回答として、セルフプランの方も相談支援事業所が計画作成で関わっている方も、65歳を見越して早めにご相談頂くことで、地域包括支援センターや行政とのつなぎをとり、切れ目なくサービス利用を継続できると思われるとの説明があった。</p> <p>(3) 新たに設置された手話言語条例推進専門部会の佐藤部会長より、手話言語条例の策定にともない、今後どのように地域に広めていくか、普及に向けた取り組みについての活動を行っており、それらについての報告があった。</p> <p>(4) 不登校児の日中の行き場について、放課後等デイサービス等の利用や通学に向けての対応等、現状について質問がある。それについて、千歳市としてはケースに応じて柔軟な対応を行った事例もあるが、福祉サービスの利用についての考え方や対応は市町村により異なる現状があるとの回答があった。</p> <p>全体を通して、個別の案件として対応が必要なものから、全体で協議すべき内容について、様々な質問が出ていた。</p> <p>2. 障がい福祉勉強会について</p> <p>本日現在で13名(相談支援部会・勉強会担当者以外)の申込みを頂いている。就労支援の実際について講義を行う回は、例年最も参加申込みが多くなっているが、昨年度と比較するとかかなり少ない状況である。申込み締切りまで様子を見ながら、再度周知を行っていく。また、9月5日に開催されたはたらく部会主催の視察研修では事業所の概要等の説明が主であったが、今回の勉強会では具体的な支援の内容・実践方法についての講義が聴ける場として周知していく。これから、講師を依頼している方々から頂いた資料の印刷等も分担して行い、</p>

準備を進めていく。

### 3. 地域課題（情報交換）について

- (1) 10月からの幼保無償化に伴いニーズも増えてくると思われるが、受け皿の不足が懸念される。通園センターも空きがなくなっている。民間の事業所も増えているが、どんどん埋まっていく状況である。必要性の見極めも必要となってくるかもしれない。
- (2) 相談支援事業所より、1人の利用者に関わる期間が長くなることにはメリット・デメリットがあると感じる。市の窓口の印象としては、相談件数はそれほど変わらないが、困難ケースが増えてきていると感じる。
- (3) 障がい者支援課より、同行援護の支給決定が増えてきている。区分を出さずに支給決定を行うケースもある。高齢の視覚障がいの方の場合、介護保険のケアプランに同行援護を載せて頂く。また、居宅介護の事業所は同行援護も行うとされているが、同行援護の研修を受けている人が少ないため、なかなか受けてもらえない現状である。
- (4) 障がい者支援課より、支給決定数では就労が多い。障がい者の働きたいというニーズを感じている。また、就労B型は年齢制限がないため80歳台の方に支給決定を行ったケースもある。就労に関しては若年者と高齢者の二分化してきているように感じる。
- (5) 医療機関より、受付状況が混み合っており、予約を入れてから受診まである程度待つ頂くことが多い。また、医師からの診断書について、基本的には本人のやる気を尊重し、本人の希望に沿うように、医師の見立ても含めて書いている。
- (6) こども療育課より、千歳は障がい児の民間相談支援事業所がない。また、計画相談支援事業所が少ないため、幼児の間は計画を立てているが、困難ケース以外は小学生に上がった場合セルフプランとなっているケースが多い。障がい者支援課より、セルフプランの方が相談に来た場合、事業所探し難航しそうなケースは相談支援事業所につないでいる。
- (7) 介護保険サービスと障がい福祉サービスの併用について、上乘せで居宅介護を利用している方の場合、ヘルパーが行うサービスの内容に差異はほとんどないにもかかわらず、ケアマネジャーの障がい福祉サービスに対する苦手意識があるように感じる。
- (8) ひきこもりのケースについて、以前は保健センターからの相談が多かったが、今は相談支援事業所に直接相談頂くことが増えてきている。ひきこもりの方への支援として利用できる福祉サービスはないため、社会に出るきっかけの一つとして就労B型を利用していきたい等あれば進めていきやすい。

### 4. その他

- (1) 次回10月中旬頃に開催予定、日程調整を行っていく。

作成者 千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度第2回 相談支援部会 障がい福祉勉強会報告	
日 時	令和元年9月27日(金) 18:00~20:15
場 所	千歳市総合福祉センター 402号室
参 加 者	市内29機関48名(事務局含む)
要 旨	<p>1. 講義</p> <p>2. 実践報告</p> <p>3. グループワーク</p>
会議内容	<p><b>【テーマ】「就労支援の実際について知ろう！」</b></p> <p><b>1. 講義「障がい者が利用できる就労サービスについて」</b>  千歳地域生活支援センター 福澤 健一 氏  就労継続支援(A・B型)、就労移行支援についてそれぞれの特徴や対象となる利用者のイメージについて説明があった。また、就労移行支援事業所が担う役割の一つである就労アセスメントの概要について説明があった。そのほか、障がい者就業・生活支援センターについて、概要等支援内容について説明があった。</p> <p><b>2. 実践報告</b></p> <p>(1) 就労継続支援B型事業所 晴レルモキッチン 米澤 緒子氏  事業所の理念や活動内容、活動目的、利用対象者、職員体制、1日の流れについての説明があった。また、通所者それぞれが抱える疾患や不安要素に対して必要とされる支援が多岐にわたり、その点に留意が必要であるという話があった。  そのほか、作業内容や工賃アップのため新たに始めた作業の紹介があり、最後には、事業所として大切にしていることとして、アセスメント、関係機関との連携、利用者との関係づくり、配慮について話があり、自立に向けてコミュニケーション能力の向上や自己有用感を得ることを目指しているとの内容であった。</p> <p>(2) 就労継続支援A型事業所 株式会社ミナモト 今井 涼氏  事業所別では多機能型サービスに該当し、就労継続支援A型とB型を行っているとの説明があった。作業内容は大きく2つに分けられ、1つは有料老人ホームの食事作り等調理全般と清掃作業(有料老人ホーム、アパート退去後の清掃、工場・会社事務所等)であるとのことであった。また、登録人数は全体的に増加しているとの話があった。  課題としては、個人の作業能力が高くなってきているが、周囲との関係性をうまく築くことができずに利用継続が難しくなってしまう方が多く、そのようなケースへのフォローアップをどのようにすべきか考えているところであるとのことであった。  なお、今後の展望として、職場環境等ハード面の整備、生産性の向上のため、来年度には事務所の移転・拡張を予定しており、今後はA・B型ともに定員を20名ずつ増やす予定であるとの話があった。</p>

(3) 石狩障がい者就業・生活支援センター 里見 悠子 氏

センターの概要として、石狩圏域の就労相談を担当し、協議会への参加や勉強会の開催等を行っている旨の説明があった。また、就労支援のプロセスについての主な流れについて、具体的な事例が紹介され、利用者への聞き取りの中で、本人の希望や強み、就労意欲の有無等に注目しながら、本人像の把握を行っていくとの説明があった。また、GATB(一般職業適性検査)を実施し、その結果を本人と一緒に確認、そこから、過去の就労でうまくいかなかった要因や、本人の長所が活かせる分野を探っていき、主に人間性・理解力を見ていくとの話があった。

就労全般における課題としては、定着支援期間経過後のことや指定を受ける事業所数が伸びないことや、障がい種別の平均勤続年数の推移から、精神障がいを持つ方の就労定着が難しいとの説明があった。

3. グループワーク

1グループ7、8名の6グループに分かれ、各グループでファシリテーターの進行のもと、自己紹介、講義・実践報告を受けての感想等を共有している。その後、グループワークで出た意見を各ファシリテーターから発表している。

最後に参加者にアンケートの記入依頼、回収している。

(1) 講義・実践報告について

- ・実際の事業所の実態が聞けて勉強になった。
- ・就労支援について、現状の大変さが勉強できた。
- ・他の事業所の取り組みが聞けて良かった。
- ・とても勉強になったので、また参加したいと思う。
- ・最初に概論があったので、現場の話も理解しやすかった。
- ・対象者イメージがわかりやすく良かった。
- ・自らの偏りを確認できる機会になったと思う。

(2) 勉強会全体を通しての感想

- ・自分の仕事に持ち帰って活かしていきたいと思った。
- ・就労定着支援の制度があることを初めて知り、勉強になった。
- ・ネットワーク構築に良いと思った。
- ・他の事業所がどのようなことをしているのか、詳しく聞けて良かった。
- ・千歳市の事業所の種類について把握できたので、対象者に紹介したいと思う。

(3) 今後取り上げてほしいテーマ等について

- ・発達障がい者(児)(若年層)への支援制度
- ・虐待に関するテーマ
- ・グループホームや就労継続での困難事例の発表を聞いてみたい。どう解決するかなどの意見を聞きたい。

作成者 千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第6回 相談支援部会 報告	
日 時	令和元年 10月24日(木) 16:00～17:15
場 所	千歳市しあわせサポートセンター 会議室
参 加 者	千歳地域生活支援センター(奥貫センター長(部会長)・福澤相談員)、千歳こぶしクリニック(松田相談員)、西区地域包括支援センター(吉田センター長)、障がい者支援課(小島係長)、こども療育課(館山相談員)、夢民(戸田氏)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長・新村・吉田)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 千歳市から</li> <li>2. 障がい福祉勉強会について</li> <li>3. 地域課題(情報交換)について</li> <li>4. その他</li> </ol>
会議内容	<p><b>1. 千歳市から(障がい者支援課小島係長より)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成年後見支援センターの開設について 10月23日に千歳市社会福祉協議会内に設置された。11月27日に開設を記念した講演会が開催されることのお知らせがある。</li> </ul> <p><b>2. 障がい福祉勉強会について</b></p> <p>9月27日に今年度第2回目の障がい福祉勉強会を開催した。終了後、企画チームで振り返りを行っている。</p> <p>次の開催日は12月6日(金)、場所は福祉センター402号室を予約している。</p> <p>内容としては、GH等の住居資源についての基礎的な学びと実践報告とする予定である。流れとしては、前年度同様、前段として基本的な知識・概論の講義を行い、実践的な内容の報告、グループワークを行う。実践報告の内容についてはまだ定まっていないが、例えば1人暮らしが難しかった人がGHで順調に生活できている、もしくはGHから1人暮らしへ進んだケース等、1つのケースで移り変わりが見える事例があればわかりやすいのではとの意見が出たので、参考にしながら検討していく。ケースの選定・講師依頼等に関しても、これから進めていく。</p> <p><b>3. 地域課題(情報交換)について</b></p> <p>(1) 前回から出ているものとして、児童から障がい者、障がい者から高齢者へとライフサイクルの変化に伴い利用する制度やサービス等も変わっていくことがあがっている。利用者が65歳を迎えて、介護保険サービスへ移行すると、障がい福祉サービスの計画相談は終了となり、ケアマネジャーに引き継がれる。市町村によってはダブルマネジメントを行っているところもあるが、千歳市としては今後もケアマネジャーが作成するケアプランの中へ盛り込む対応でいくとの話がある。</p> <p>(2) 最近の傾向として、新規の相談の他、現在サービスを利用している方で、相談支援を受けたいとの問い合わせが増えてきている印象を受けるとの話がある。介護の上乗せについてはほとんどが身体介護であり、介護保険サービスで足りない部分を障がい福祉サービスで補っているとの説明がある。その他、就労系のサービスの申請が増えてきている印象</p>

	<p>を受けるとの話がある。</p> <p>(3) 学校の普通級に通っていて、児童デイサービスを利用されている方等、今までにないケースも増えてきている。</p> <p>(4) 将来の障害基礎年金の申請を見据えての病院受診について、20歳になる2,3年前から通院しているケースもあるが、数ヵ月前程度で十分であるとの話が出る。また、支給対象になるかならないかのグレーゾーンの方からの年金についての問い合わせも増えている傾向にあるとの話がある。</p> <p>(5) 相談支援事業所について、まだまだ市民の方々に周知されていないと感じている。訪問での面談を希望されるケースは少なくない。気軽に寄れる印象はあまりないのかもしれない。</p> <p>(6) 地域生活支援拠点等の今後の進め方について、近々担当者間で打合せを行う予定であり、その後相談支援部会でも具体的に進めていく。</p> <p>(7) 就労継続支援B型事業を2ヵ所等、サービスの併用については、本人の中で明確な目的があり、やむを得ない事情がある場合のみ可能とするケースもある。</p> <p><b>4. その他</b></p> <p>(1) 次回開催日程については、千歳市障がい者地域自立支援協議会の定例会が11月21日のため、その前後で調整を行っていく。</p> <p>(2) 次回の会議の際に、成年後見制度に関わるもので、各自で受けている相談・ケースについての現状等持ち寄って話し合ってみる。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 こども部会情報部交換会（座談会）報告	
日 時	令和元年9月26日(木) 10:00~12:00
場 所	千歳市総合福祉センター 402号室
参 加 者	参加者10名 こども部会構成メンバー7名 合 計 17名
要 旨	<p>1. テーマについて</p> <p>2. 情報交換会</p> <p>3. アンケート集計結果</p>
会議内容	<p>1. テーマについて</p> <p>テーマ1：就学に向けて</p> <p>テーマ2：福祉サービスについて</p> <p>テーマ3：就労に向けて</p> <p>テーマ1が4名、テーマ2が3名、テーマ3が3名希望の申し込みがあった。各グループに2～3名ずつこども部会構成メンバーが入り情報交換を行った。</p> <p>2. 情報交換会</p> <p>就学に向けてのグループでは主に就学の話、保護者の子育ての悩み、支援学級と通常学級をどのように選んでいったらいいか等の話があった。就学後の話や支援学級の子どもの生活について具体的な話をもとに情報交換を行った。福祉サービスについてのグループでは、利用できる福祉サービスのほか、民間のサービスに関して実体験に基づいた話もあった。また、不登校児について家庭で行っている対応の仕方等の意見交換も行われた。就労に向けてのグループでは、高等支援学校やその後の将来について、保護者が聞きたい内容を聞けるような時間となった。</p> <p>3. アンケート集計結果</p> <p>(1)利用先(学校)の案内、利用先(事業所)、通園センター、友人・知人からの案内で今回の情報交換会を知った。</p> <p>(2)定期的に情報交換ができる場に参加している方もいたが、はじめて参加した方もいた。</p> <p>(3)参加者のほとんどが役立つ機会になった、今後も参加したいと回答していた。</p> <p>(4)聞いてみたい、興味のあるテーマとして以下の回答があった。</p> <p>千歳市には無いが、恵庭市にある特認校などのことを聞きたい。</p> <p>大人数ではパニックになる子どもを少数制の学校に通わせた事例など発達障害の関わり方、アドバイス等</p>

	<p>千歳市で使える子どものサービス 就労について 同じくらいの月齢の子をもつ保護者の話 子どもが言うことを聞かない時の親の対応、他の保護者はどうしているか。 障がいを持つ子どもたちの習い事について</p> <p>(5)都合の良い開催曜日・時間帯(複数回答) 平日午前、平日午後、平日夜、週末午前、週末午後</p> <p>(6)要望、感想等として次の回答があった。</p> <p>障がいのある子たちの保護者と話す機会があまりなく、貴重な時間となった。今は就学前の子どもを見ているが、10年後、20年後新たに出てくる問題などを具体的に教えてもらえた。これからのことを踏まえて目標設定、将来のビジョンが見えてきた。</p> <p>話の共有というか、関わる親たちの交流の場所があったらいいかなと思う。日々の生活で不安があるので元気になれる事のような気がする。</p> <p>色々なお話を聞いて良かった。他のグループのお話も聞きたかった。</p> <p>たくさんの情報を聞いて良かった。</p> <p>大変参考になった。疑問だったことが解決した。</p> <p>療育に通っている保護者の集まりを増やしてほしい。情報交換や悩みを共有していけたらいいなと思う。</p> <p>札幌では個別指導のプール教室や、障がい者限定のプール教室、習い事も障がい者手帳がある人は割引ありと案内に記載され選択肢がある。千歳でももっと気軽に体を動かせる機会が定期的に得られる制度を作ってほしい。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 第4回 こども部会 報告	
日 時	令和元年 10月17日(木) 10:00~11:30
場 所	千歳市総合福祉センター 307号室
参 加 者	サポートセンターエブリ(田口所長(部会長))、ライフヘルプちとせ(熊谷氏)、千歳療育教室はる(石岡氏)、ラブアリス千歳桜木別館(影山氏)、第二ちとせくらぶ(白井氏)、みどり台(浅野氏)、千歳市社会福祉協議会(田村氏)、北海道南幌養護学校(中川氏)、千歳市北進小中学校(板垣氏)、北海道千歳高等支援学校(古木氏)、こども療育課(吉田主査(副部会長))、学校教育課(石川氏)、障がい者支援課(石黒主事)、千歳市障がい者総合支援センターChip(横山センター長(事務局次長)・中村相談員)
要 旨	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.レッツスマイル冬企画について</li> <li>2.座談会(情報交換会)反省</li> <li>3.合同説明会について</li> <li>4.情報提供(課題共有)</li> <li>5.その他</li> </ol>
会議内容	<p><b>1.レッツスマイル冬企画について</b></p> <p>日程は1月11日(土)を予定。福祉バス抽選終了後に空き状況を確認し、日程を決める。企画内容としてはチューブそり等外で雪遊びを楽しむことが出来る国営滝野すずらん丘陵公園にある滝野スノードームに決定している。悪天候時は室内の虹の巣ドームで身体を動かして遊ぶ。</p> <p><b>2.座談会(情報交換会)反省</b></p> <p>9月26日(木)に行った座談会(情報交換会)についてのアンケート結果をもとに振り返りを行う。当日の参加者は10名で、たくさんの情報を聞いて参考になった、日々の生活で不安があるので今後も親たちの交流の場所があったら良いと思うという意見があった。</p> <p>当日参加した部会メンバーからの感想・反省点として次のことが挙げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数のグループであり、参加者が聞きたいことを聞ける雰囲気良かった。</li> <li>・通園センターに通っている子どもの保護者は定期的に学習会等に参加し繋がりがあがるが、通っていない保護者は悩みを共有するような場がなかなかない現状であることがわかった。</li> <li>・通園センターに繋がっていないけれど、自分の子育てに心配がある保護者が悩みを共有できる場が少ないので、市で行っている子育てスキルアップ講座やカウンセリングも活用していければ良いのではと思った。</li> <li>・グループ3名中2名のお子さんが不登校という話があり、子どもの状況を受け止めてそれぞれに合わせたペースで将来を考えているというような話があった。また不登校の原因として昨年の震災後に学校へ行けなくなったという部分が共通し、震</li> </ul>

災の影響が大きいことが分かった。

・子どもが不登校となっている保護者は友人の紹介で会を知り参加してくれていたようで、多くの生徒に案内を配布したことで保護者同士の口コミでも会について周知されているように感じた。

・なかなか保護者同士で話す機会が少ないという話を保護者から聞き、良い機会になったのではないかと思う。

#### 4. 合同説明会について

はたらく部会共催の合同説明会が11月30日(土)千歳市総合福祉センター4階で開催される。402号室で就労支援事業所、403号室で児童の事業所で個別相談ブースを設けて事業所ごと個別の対応をする。チラシが完成したら各事業所で配布予定となる。事業所の紹介が出来るようなデータやリーフレットの準備を行う。

#### 5. 情報提供(課題共有)

##### (1) 事業所空き情報について

ライフヘルプ 日中一時：月水木空き有。火応相談。

移動支援：火水木金空き有。月土応相談。

ゆうび 日中一時：月水空き有。火木金土応相談。

移動支援：月水応相談。火木金土日空き無。

ラブアリス千歳桜木 児童発達、放課後デイ共に空き無。

ラブアリス千歳桜木別館 児童発達：月水空き有。火木金応相談。

放課後デイ：月水空き有。火木金応相談。

ちとせくらぶ 児童発達：土日、祝日空き有。木応相談。

放課後デイ：土日、祝日空き有。木応相談。

第二ちとせくらぶ 児童発達：空き無。

放課後デイ：土日空き有。

みどり台 児童発達：月水空き有。

通園センター 児童発達、放課後デイ共に応相談。

エブリ 日中一時、移動支援共に空き無。

ぱすてる 児童発達、放課後デイ共に空き無。

##### (2) 第二ちとせくらぶ

12月中旬から第二ちとせくらぶの2階で第三ちとせくらぶ開所予定。利用時間等はちとせくらぶ・第二ちとせくらぶと同じ。

##### (3) 通園センター

11月9日(土)16:00~18:20「千歳命名215年・開庁140年記念」第31回子どもの発達と障がい講演会が開催される。

	<p>(4)学校教育課 11月12日(火)10:00～12:00 花園コミュニティセンター 「地域啓発セミナー」(主催:こどばを育てる親の会北海道協議会、窓口:緑小学校 ことばの教室)</p> <p>(5)南幌養護学校 11月9日(土)に学校祭が開催される。9:30から小学部・中学部のステージ発表、 11:40から高等部が作業で作ったものの販売がある。</p> <p>(6)千歳高等支援学校 11月16日(土)に学校祭が開催される。各学年のステージ発表や模擬店、作業で作 った物の即売会がある。</p> <p>(7)千歳市北進小中学校 11月24日に学芸発表会が行われる。</p> <p>(8)課題共有 市内の学校では、通常学級に在籍する発達障がいのある子どもをどのように支援す るかが大きな課題となっている。診断を受けている児童生徒も年々増加しており、現 状についての意見交換をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道ではトライアングルプロジェクトとして家庭と教育と福祉の連携を推進して いる。千歳市としての対応方針は決まっていないが、今後学校と幼稚園・保育園と福 祉の連携の在り方を考えていきたい。</li> <li>・学校に行けない生徒が、きっかけとして児童デイの事業所に通いたいという話があ る。学校と連携を取りながらやっていくことが基本的な形であるため、まずは学校と 相談することになる。</li> <li>・イエローファイルを学校で保管していることが多く、情報が事業所に入っていない。 学校で保管になっている明確な理由はないが、重要な情報源であるため事業所とし ても保護者に見せてもらえるようお願いすることが度々ある。複数の事業所を利用し ている人も多く、イエローファイルを活用し情報を集めている。</li> <li>・福祉サービスを利用している子どもでイエローファイルがない場合もあるが、ファ イルのあるなしにかかわらず連携は必要であり、ひとつのツールとして活用して いく必要がある。また、イエローファイルがある子どもの保護者には、個別支援計画作成 時イエローファイルに入れて保管してもらおうよう支援者から伝えていく必要がある。</li> </ul> <p><b>5.その他</b></p> <p>(1)次回開催について 12月19日(木)10時～開催予定。</p>
作成者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度はたらく部会 視察研修報告	
日 時	令和元年9月5日(木) 9:50~14:40
参加者	20名(参加区分内訳 :10名 :3名 :1名 :6名) :Om-Net(牧野)、(株)ピアハープ(山下・野本)、青葉の杜(森川・鳥越・毛内)、サポートセンターユリーカ(芦田)、わくわくわくファーム(秋本・高瀬)、のいける(山口) :エコファクトリー(結城)、千歳物流センター(佐々木)、サークルエイト(三宅) :千歳病院デイケア(橋場) :晴レルモキッチン(川口・米澤)、メビウス(五十嵐)、千歳物流センター(木暮)、サークルエイト(木村)、のいける(里見)
視 察 先	(1)就労継続支援A・B事業所 株式会社ミナモト (2)就労継続支援B事業所 晴レルモキッチン (3)就労継続支援A・B事業所 エコファクトリー・結び工房
内 容	以前、部会において「日常支援がある中で日程調整が大変。」また「千歳市内の事業所へは行けそうで行けない。」という声があったため、今年度は、市内の事業所を視察することとし、 :全日程、 :午前のみ(昼食あり)、 :午前のみ(昼食なし)、 :午後のみ の4つの区分の中から参加しやすい時間を選べるようにした。 (1)株式会社ミナモト 支援員の杉山氏とともに本事業所の入所施設・厨房を実際にまわりながら、利用者が床掃除を行っているところや厨房で食事の準備をしているところを視察した。その後、施設長今井氏から利用手続きや現在通っている利用者の様子などの話があった。 (2)晴レルモキッチン 東雲会館にて晴レルモキッチンで作ったからあげやおにぎり、豚汁をいただきながら晴レルモキッチンの支援員福田氏から事業所の説明を受けた。説明の中では、事業所の理念、活動目的、対象者、現在の利用状況、職員体制、一日の流れ、作業内容などの話があった。 (3)エコファクトリー・結び工房 株式会社119 インターナショナルが運営する結び工房とエコファクトリーへ行き、結び工房では、お店で提供されているコーヒーをいただきながらサービス管理責任者の結城氏からお店の説明を聞き、販売している商品の紹介を受け、実際に利用者がニンジンの皮むきをしているところを視察した。 エコファクトリーでは、利用者がパソコンを使って作業しているところや作業室で工具を使って作業しているところを視察した。 (4)アンケートについて アンケートでは、「他の事業所や企業を知る重要な機会なので是非実施してほしい。」との声があがっているほか、「他に飲食の作業を行っている事業所を視察できたらと思う、また、販売する利用者の様子を見たい。」や「視察先の事業所からすると事前に見聞きたいポイントが事前に分かっていると受け入れやすいのではないか。」などの意見があったため、こうした意見を取り入れながら来年度以降も継続して実施していきたい。
作 成 者	就労推進室やませみ 下川部 志穂

令和元年度 第3回はたらく部会 報告	
日 時	令和元年9月6(金) 18:00~19:00
場 所	東雲会館 1号室
参 加 者	26名 障がい者総合支援センターChip(中村・吉田)、千歳地域生活支援センター(今野)、いずみワークセンター(玉井)、エコファクトリー(結城)、ピアハープ(山下)、帆の風(藤岡)、ウィンドバレー(千葉)、千歳物流センター(佐々木)、Om-Net(牧野)、サポートセンターユリーカ(芦田)、オルポノ(有田・川波)、晴レルモキッチン(米澤)、わくわくわくファーム(秋本)、蓮げ荘(田本)、千歳病院デイケアひかり(橋場)、千歳桂病院デイケアポプラ(葛西)、千歳高等支援学校(斎藤・館山)、石狩障がい者就業・生活支援センターのいける(里見・菅原)、障がい者支援課(石黒)、就労推進室やませみ(野田・加藤・下川部)
要 旨	<p><b>1. 報告事項</b>  (1)視察研修について (2)合同説明会について (3)地域課題について</p> <p><b>2. その他連絡事項</b></p>
内 容	<p><b>1. 報告事項</b></p> <p>(1)視察研修について  「ご近所さんの支援を見に行こう!」とのコンセプトのもと実施した。  以前、部会において「日常支援がある中で日程調整が大変。」また「千歳市内の事業所へは行けそうで行けない。」という声があったため、今年度は、市内の事業所を視察することとし、全日程・午前のみ(昼食あり)・午前のみ(昼食なし)・午後のみ(昼食なし)の4つの区分の中から参加しやすい時間を選べるようにした。  参加人数は20名であり、視察先は 株式会社ミナモト、 合同会社ハレルモ 晴レルモキッチン、 株式会社119 インターナショナル(結び工房・エコファクトリー-)の3か所であった。  アンケート結果は第4回はたらく部会で報告する。</p> <p>(2)合同説明会について  日時は11月30日(土)、場所は千歳市総合福祉センター4階402号室及び403号室とし、ポスターの内容(案)、諸設備の調整等について話し合った。  また、昨年度同様こども部会と合同で開催する。</p> <p>(3)地域課題について  事前に各事業所からいただいた事例の1つについて検討した。  障がい種別は発達障がい、利用者本人は、自分なりに効率良く作業に取り組もうとするため対人面でトラブルとなることがある。  また、本人の意に反することがあると物にあたり、その場から出ていくなど突発的な行動がある。  部会参加者からは、「第三者機関との連携の重要性」、「家族を巻き込んだ支援の必要性」、「個人の障がい特性に対する理解が必要である」などの意見が挙げられた。</p> <p><b>2. その他連絡事項</b></p> <p>のいけるから「発達障がいの特性とその可能性」と「テレワーク」に関する勉強会について案内があった。  Om-Net から年賀状印刷・オリジナルカレンダーの販売案内があった。  障がい者支援課から「恵庭市農福連携収穫体験会」について報告があった。</p>
作 成 者	就労推進室 やませみ 下川部 志穂

令和元年度 第2回 地域生活部会 報告	
日 時	令和元年9月3日(火) 13:00~14:30
場 所	めいぷるサロンしろっぷ
参 加 者	千歳市肢体不自由児者父母の会(岡田会長(部会長))、支援センターゆみな(清水所長)、ふるたから事務所(古田委員)、千歳市障がい者支援課(佐藤係長)、千歳市障がい者総合支援センター(横山・新村)
要 旨	<p>1. 今後の活動について</p> <p>2. 情報共有(地域で生活されている皆さんの情報)</p> <p>3. その他</p>
会議内容	<p>1. 今後の活動について</p> <p>(1) これまでの意見交換の内容、今後の活動について確認をした。</p> <p>地域で生活している弱者の把握。地域で暮らすために必要となるサービスの検討。地域の情報を得るためにどうするか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各任意団体からの聞き取りが良いのではないか。</li> <li>・各事業所に情報提供を求める。</li> <li>・部会構成員をもう少し増やしていく必要もある。</li> </ul> <p>課題解決の方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を集約しておくことで、緊急時などに有効に活用することができる。</li> <li>・課題としてあがっている話とこうやったらよかったことなどの情報を集める。</li> </ul> <p>震災から1年がたち、各所から上がっている課題や情報についても取りまとめていく機会や方法について検討していく。</p> <p>(2) 地域生活部会の目的を鑑み、地域の課題の把握に継続して取り組んでいくが、震災で得た教訓や、課題を振り返る機会を作っていくのはどうかとの意見がでる。</p> <p>具体的な方法としてイベントを開催してはどうか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年に1回毎年開催。</li> <li>・自助・共助できることできないことを整理する。</li> <li>・行政・消防などの専門機関にお願いして災害対策等の講演を行う。</li> <li>・震災に関わる映画を上映する。</li> </ul> <p>開催について具体的に検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場確保、具体的開催内容について検討する。</li> <li>・定例会で報告し、委員の皆さんの意見を聞く。</li> </ul> <p>2. 情報共有(地域で生活されている皆さんの情報)</p> <p>時間の都合で共有できず、次回以降も継続的に取り組んでいく。</p> <p>3. その他</p> <p>イベント開催に向けて、必要な時に部会を開催していく。 (日程は後日確認)</p>
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

令和元年度 地域生活部会勉強会開催報告	
日 時	令和元年10月6日(日) 13:30~17:00
場 所	総合福祉センター4階 402号室
参 加 者	<地域生活部会> 古田委員、清水委員、奥貫委員 <当事者団体等> 20名 <事務局> 千歳市保健福祉部障がい者支援課職員
要 旨	北海道胆振東部地震発生から一年が経過し、当時を振り返るとともに自助・共助の在り方について意見交換を行った。
内 容	<p><b>タイトル：地域生活部会勉強会「災害時における自助・共助について」</b></p> <p>&lt;日程&gt;  13:30~ 開会(古田委員からあいさつ)  13:40~ 上映会「星に語りて」(きょうされん結成40周年記念映画)  15:30~15:45 休憩  15:45~16:25 講義「避難所開設・運営講習」(説明者：新谷障がい者支援課長)  16:25~17:00 質疑応答、閉会</p> <p>講義終了後は、自助・共助に関するグループワークの実施を予定していたが、参加者から質疑応答の時間を長く設けてほしいとの意見が多くあり、グループワークに替えて、質疑応答の時間(16:25~17:00)を設け、勉強会を終了した。</p> <p>&lt;主な質疑・意見等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が避難所となっている場合に、体育館だけではなく教室も活用し、障がいのある人の避難スペースとするのが良いと思うが。 最寄りの避難所に避難していただき、その後福祉避難所に移るという方法がある。各教室については、基本的には個人情報(児童等の写真や絵画等の展示、教材など)保護の観点から教室の利用は難しいと思われる。</li> <li>・福祉避難所への移動はどのような方法が想定されているのか。 基本的には、各自での移動をお願いすることになる。</li> <li>・福祉避難所が5つあるが、ほっとす2か所は高齢者を想定している。北進小中学校と高等支援学校は実質的に当該校に通学している児童・生徒の避難所として想定されている状況であり、福祉センターだけでは収容能力が足りないと思われる。 また、避難所の運営においては、障がい種別で考える必要があると思う。 今年12月をめぐりに防災に関するガイドブックを全戸配布する。個別計画も策定中であり、いただいた意見なども参考にしながら、防災体制の構築を図っていくこととなる。</li> </ul> <p>&lt;今後の開催について&gt;  地域生活部会では、活動の中心を「在宅生活に関する諸問題の把握と対応策の検討」としつつも、災害に関しても地域生活における課題の一つであると考えており、今後一定期間、毎年9月をめぐりに災害に関する勉強会・意見交換会の開催を検討していく。</p>
作 成 者	千歳市障がい者総合支援センターChip 横山 真紀

せいねんこうけんせいど にちじょうせいかつじりつしえんじぎょう  
**成年後見制度と日常生活自立支援事業の違い**

制度	せいねんこうけんせいど 成年後見制度	にちじょうせいかつじりつしえんじぎょう 日常生活自立支援事業
概要	◎重要な法律行為 財産管理や身上監護に関する法律行為全般を行う	◎日常的な法律行為と事実行為 日常的な生活援助の範囲内で支援を行う
具体例	●現金・預金・証券・不動産・負債などの財産全般の管理 ●施設への入退所契約、入院契約 ●不動産の売却や賃貸契約解約 ●遺産分割協議における本人代理 ●消費者被害の取消し	●日常的な金銭の管理(家賃、公共料金、医療費や福祉サービス利用料の支払手続) ●福祉サービスの利用援助 ●契約手続きの援助 ●通帳、印鑑、年金証書の預かり
対象	認知症、知的・精神障がいにより、判断能力が十分でない人	高齢や障がいにより日常生活の判断に不安のある在宅で生活している人(契約ができる程度)
援助者*	成年後見人、保佐人、補助人、任意後見人	専門員、生活支援員
利用料 (費用報酬)	後見人などに対する報酬額は家庭裁判所が決定	1回1時間程度 1,200円の利用料と生活支援員の交通費が必要

※援助者は、婚姻・離婚・養子縁組等の身分行為、家事・介護等の事実行為のほか、医療同意、選挙投票等を行うことはできず、身元保証・身元引受・連帯保証人になることもできません。

**千歳市成年後見支援センター 利用案内**

**時間** 月曜日～金曜日 8:45～17:15

**休日** 土・日・祝日、年始年末12月29日～翌1月3日

社会福祉法人 千歳市社会福祉協議会  
 〒066-0042 千歳市東雲町1丁目11番地

**HP**

<http://www.chitose-shakyo.or.jp>

千歳市社協

検索



住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために  
 ちとせしせいねんこうけん  
**千歳市成年後見支援センターのご案内**

認知症、知的・精神障がいなどがあり、日常生活や将来に不安がある方はお気軽にご相談下さい!

こんなことに困っていませんか?

**制度**

- 成年後見制度や日常生活自立支援事業についてよくわからないので詳しく知りたい。
- 成年後見等の申立て手続きがわからない。

どんな制度?



**財産**

- もの忘れがあり通帳をなくしたり、お金の管理が自分でできない。
- 訪問販売や悪徳商法の被害を受けている。



**契約**

- 福祉サービスを利用したいが、自分で契約の手続きができない。
- 施設入所を考えているが一人で決めるのが不安。



**将来**

- 自分に何かあったときに、障がいのある子どもの生活が心配。
- 身寄りがないので、今後の財産管理が不安。



千歳市成年後見支援センター

TEL : 0123-27-2527

FAX : 0123-27-2528

✉ [c-shakyo@chitose-shakyo.or.jp](mailto:c-shakyo@chitose-shakyo.or.jp)

まずはご相談ください!  
(相談無料)

# 制度について教えて!

## ? 日常生活自立支援事業とは?

本人の判断能力は不十分であっても、成年後見制度を利用するほどではない方に対して、千歳市成年後見支援センターが次のようなサービスを提供し、個人の財産と権利を守ります。

- 援助内容**
- **福祉サービスの利用援助**  
福祉サービスの利用に関する手続きなど
  - **日常的金銭管理**  
公共料金の支払い手続き、預貯金の払い出しなど
  - **書類等の預かりサービス**  
預貯金の通帳や大切な書類などの保管

## ? 成年後見制度とは?

認知症、知的障がい・精神障がいなどにより、判断能力が十分でない方の権利を守る制度です。成年後見人等が、そのような方々の意思を尊重し、その人にふさわしい生活を送れるようお手伝いします。制度は次の2種類です。

### 1 法定後見制度

本人やご家族などが家庭裁判所に申し立てし、後見人等が選任されます。判断能力により次の3種類になります。

- 後見** 常に判断力を欠いており、日常の買い物も一人では難しい人
- 保佐** 判断能力が著しく不十分で、日常の買い物は一人でできるが、重要な財産の管理・処分などは難しい人
- 補助** 判断能力が不十分で、重要な財産の管理などを一人ですることが不安な人

### 2 任意後見制度

本人に十分な判断能力があるうちに、将来判断能力が衰えた後の自分の生活、療養看護や財産管理に関する事務を本人の信頼のおける人に委託する契約（任意後見契約）を公証役場で結びます。

# あなたに必要なサービスとは?



**判断能力が常に欠けている**  
物忘れがひどくなり、家族の区別もつかなくなってきた。

いいえ

**判断能力が著しく不十分**  
物忘れが多くなってきた。重要な契約は自分一人ではできない。

いいえ

**判断能力が不十分**  
ほとんどのことは自分でできるが誰かの手助けがあると安心。

いいえ

**判断能力に不安がある**  
通帳や印鑑をどこに置いたか忘れてお金をおろせないことがある。

いいえ

**判断能力が十分にある**  
これからのことが不安。将来支援してくれる人を今のうちに決めておきたい。

はい

はい

はい

はい

はい

せいねんこうけんせいど  
**成年後見制度**  
こうけんるいけい  
【後見類型】

### 後見人

- 日用品の購入などの行為以外はすべて取り消すことができます。
- 本人に代わってすべての契約を行います。

せいねんこうけんせいど  
**成年後見制度**  
ほさるいけい  
【保佐類型】

### 保佐人

- 法律で定められた重要な行為を本人が行った場合に、取り消すことができます。
- 家庭裁判所が定めた範囲で、本人に代わって契約を行います。

せいねんこうけんせいど  
**成年後見制度**  
ほじょるいけい  
【補助類型】

### 補助人

- 家庭裁判所が定めた範囲で、本人が行った行為を取り消すことができます。
- 家庭裁判所が定めた範囲で、本人に代わって契約を行います。

**日常生活自立支援事業**  
じりつしえんじぎょう

### 専門員・生活支援員

- 専門員が困っていることの相談に応じます。
- 生活支援員が訪問して生活費を届けたり、必要な支払いを行います。

にんいこうけんせいど  
**任意後見制度**

### 任意後見人

- あらかじめ、本人が決めた財産管理や生活についての「してほしい」ことに関する法律行為を行います。

千歳市社会福祉協議会が法人として選任されることもあります

法定後見制度

日常生活自立支援事業

任意後見制度

千歳市成年後見支援センターがお手伝いします!

成年後見制度

任意後見制度

## 千歳市成年後見支援センターではこんな業務を行っています

### 相談

- 判断能力に不安がある方の生活や財産管理に関する困りごとについて相談に応じます。
- 成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用が必要であるかを検討し、今後の方向性について共に考えていきます。
- 相談の内容によって必要な関係機関と連携し、ご相談者が安心して生活できるよう支援します。

### 手続き支援

- 家庭裁判所に申し立てをする際に必要な書類の説明や申立書の書き方等の支援を行います。

### 普及・啓発

- 「成年後見制度」の理解を深めるための講演会等を開催します。
- 「成年後見支援センター」の役割や「成年後見制度」を知っていただくためのパンフレットを作成し、広く周知します。

### 市民後見人の養成

- 判断能力が低下した方の生活を身近な立場で支援する「市民後見人」の養成を行います。

### 法人後見事業

- 千歳市成年後見支援センターを運営している千歳市社会福祉協議会（以下、「市社協」といいます）が家庭裁判所から「成年後見人」等に選任され、本人の支援を行います。
- 本人を直接支援するのは「後見支援員」と呼ばれ、成年後見制度に関する知識や技術等を学ぶ一定の養成研修を修了した人です。「後見支援員」の活動は、市社協がしっかりと監督します。また、市社協が「成年後見人等」として行う行為は、家庭裁判所が監視します。

千歳市成年後見支援センター  
開設記念講演会

入場料無料  
手話通訳 あり  
要約筆記

# 認知症になった波平さん ～契約社会と成年後見～

アニメ「サザエさん」でおなじみの波平さんが認知症になった磯野家の物語を事例にあげ、認知症や知的障がい、精神障がいなどによって、判断能力が十分でない方の生活や権利を守るための「成年後見制度」についてわかりやすくお伝えします。



日時 令和元年 **11** 月 **27** 日(水)  
13:30～15:00 (受付開始 13:00～)

講師 **渡辺 哲雄 氏**  
日本福祉大学中央福祉専門学校専任教員

会場 **北ガス文化ホール  
中ホール**  
(千歳市北栄2丁目2番11号)

定員 400名 (要事前申し込み)

電話、メールまたは裏面の参加申込用紙に記入のうえ、持参か  
FAXにて **11月22日(金)**までにお申込みください。

お申込み・お問い合わせ先

**☎ 0123-27-2527**

FAX **0123-27-2528**(裏面 FAX 用紙ご利用ください)

✉ [c-shakyo@chitose-shakyo.or.jp](mailto:c-shakyo@chitose-shakyo.or.jp)

千歳市成年後見支援センター(主催:千歳市社会福祉協議会)

所在地:千歳市東雲町1丁目11番地

※千歳市成年後見支援センターでは、認知症、知的障がい、精神障がいなどにより日常生活や将来に不安がある方のご相談や成年後見制度についてのお問い合わせ窓口となっております。お気軽にご相談ください。

# 千歳市成年後見支援センター開設記念講演会

## 参加申込書

氏名、電話番号をご記入の上、FAX、E-mail、持参でお申込みいただくほか、電話でお申込みください（氏名、連絡先をお知らせください）。なお、個人情報は本講演会の運営のみに使用します。

お申込み FAX **0123-27-2528**

参 加 者	氏 名	電 話 番 号

問合せ・申込先（電話・メール・持参）

- 千歳市成年後見支援センター（千歳市社会福祉協議会 地域福祉課地域福祉係）  
千歳市東雲町 1 丁目 1 1 番地

**電話 0123-27-2527 / メール c-shakyo@chitose-shakyo.or.jp**

申込締切 **令和元年 11 月 22 日 (金)**

※定員に達した場合は、締め切らせていただきますので、あらかじめご了承ください。